

献 辞

辻隆久先生は、平成30年3月末日をもって定年退職となりました。先生は、平成20年4月に本学産業・法律情報研究所の准教授として就任されて以来、近畿大学での在籍期間は10年間となります。先生のご退職にあたり、本学における先生の教育・研究活動に対するご功績を讃え、本記念号を献呈させていただきます。

辻先生は、昭和26年、佐賀県鳥栖市で出生されました。昭和52年に京都大学法学部をご卒業後、同年4月から帝人株式会社に入社され、会社では長く労務管理業務に従事されました。平成9年から12年まで南通帝人有限公司に出向して、総務部長、副総経理を担当されました。平成12年から、帝人株式会社三原事業所事務室長・事務所長を担当された後、平成16年から同社海外事業企画室副室長、駐中国総代表を務められました。平成20年4月に本学へ奉職され、平成23年4月、本学経営学部キャリア・マネジメント学科教授として移籍して、ビジネス・インターンシップ、アドバンスト・インターンシップなどの授業をご担当されました。

ご研究では、インターンシップ教育のあり方について研究しておられます。インターンシップ教育では、学生が事前研修において意識を高く維持して企業実習に臨むことで、その後の事後研修の継続率と教育効果に大きな影響を与えることを授業を通じて解明し、効果的な事前研修、企業実習、事後研修の構成について研究されました。さらに、中国進出日系企業におけるコミュニケーション教育についての研究では、中国進出日系企業に勤務する日本人駐在員に対するコミュニケーション教育について、自身の日本人駐在員としての経験をもとに、現地従業員とのコミュニケーション・ギャップという問題について取り上げ、日本人駐在員がとるべきコミュニケーションのあり方について研究しておられます。

このような教育・研究活動に加えて、学内運営に関しては、長い間、キャ

リアサポート・オフィスの運営・管理にご尽力してられました。先生は、キャリアサポート・オフィスでは、チームリーダー的な役割を果たされ、メンバーの1人ひとりが能力を発揮し、高い生産性を発揮できるよう気配りされ、メンバーがお互いに出し合った意見をまとめることで、目標達成が可能な解決策を導いてられました。キャリアサポート・オフィスでは、先生のことを「ブルドーザー」に例えられるくらい、目の前に大きな壁があろうとも、物ともせず一步一步着実に前進して処理してられました。馬力があって、地面をしっかりとらえて常に前進されるイメージは、大学時代に京都大学硬式野球部に所属して活躍されたという頑丈な体にもぴったりです。

辻先生は、それまで2年生以上を対象としていたインターンシップを1年生から受講できるように改革され、多い時は285名にもなる受講者のインターンシップ受け入れ先を確保するため、キャリアサポーターとともに企業訪問を繰り返し、新しい受け入れ企業の開拓にも奔走されました。そうした努力の結果は、日本インターンシップ学会 榎本賞「最も秀逸な事例」として近畿大学経営学部が表彰され、先生を中心としたキャリアサポート・オフィスのこれまでの取り組みが評価されています。

学外においても、日本ビジネス実務学会、日本インターンシップ学会、国際行動学会、多文化関係学会等でもご活躍され、日本インターンシップ学会では高良記念研究助成審査委員、関西支部運営委員などを務めてられました。

さらに、体育会ゴルフ部の部長を務められ、課外教育における指導者としてもご活躍なされました。

辻先生には、ご退職後も経営学部に対するご指導とご鞭撻をお願い申し上げますとともに、これからも健勝に留意され、なお一層のご活躍を心よりお祈り申し上げます。併せて、この退任記念号に玉稿をお寄せいただいた執筆者の各位ならびに編集委員会の労に対し、心より厚くお礼申し上げます。

平成31年3月

近畿大学経営学部長
羽 藤 憲 一